

龍穩寺(入間郡越生町)









ここが太田道真・道灌親子が再建したという龍穩寺



正面が山門



左手前方に越生七福神の看板がある/ここは毘沙門天とある









境内側から見る



現在の山門は経蔵・熊野社とともに大正二年の火災を免れた天保十二年(1842年)再建のものという











江戸城外濠の石(江戸城外濠に架かる神田橋橋台に使用されたものを、首都高速道路開設の際、間組により取り外され、日高町
榆木新井巧二氏の好意によって寄贈されたものと記されている)





龍りゅう 穩おん 寺じ

所在地 越生町大字龍ヶ谷

龍穩寺は、永享の頃（一四二九～一四四一）に將軍足利義教が上杉持朝に命じて尊氏以来の先祖の冥福と戦乱に果てた人々の霊をとむらうために創立したものとされる。しかし、その後兵火にかかったので、文明四年（一四七二）に太田道真、道灌父子によって再び建て直された。

天正十八年（一五九〇）には豊臣秀吉から御朱印百石を受け、次いで慶長十七年（一六一二）には徳川幕府から、曹洞宗の関東三か寺を命ぜられ、国内二十三か国の曹洞宗の寺院の世話をした。また、江戸に寺地を賜わり住職はそこに常在して公務を勤めたという。

宝暦二年（一七五二）に火災によって堂塔を焼失し、天保十二年（一八四二）に再建した。しかしながら大正二年の火災によって、山門、経蔵、熊野社を残して全焼し、現在ある本堂は戦後再建したものである。

昭和五十八年三月

埼玉 県



龍穩寺縁起

龍穩寺は、（龍穩寺）境は、（龍穩寺）大なる、永平、（龍穩寺）似て、（龍穩寺）から、小永平寺と云わ

今からおよそ十二百年、（龍穩寺）平の時代に山岳仏教として、（龍穩寺）山伏や修験道の行者たり、（龍穩寺）よつて、（龍穩寺）たれて、（龍穩寺）が、（龍穩寺）時代の変遷と、（龍穩寺）に衰微し、永享二年（一四三〇年）に至り、足利六代將軍義教が鎌倉時代以後、関東における敵味方の戦死者の菩提を弔うたの、関東管領上杉持朝、（龍穩寺）初代の川越城主に命じて、義教が日頃帰依してゐる無極禪師（児玉党、越生氏出身）を請じて、（龍穩寺）関山第一世として、（龍穩寺）関東曹洞宗第一の道場とした。

のち、うち、（龍穩寺）続く、兵乱のため荒廢し、第三世兼叟禪師に至つて、（龍穩寺）太田道真道灌父子ともに、（龍穩寺）義教の意志を継承し、（龍穩寺）また、（龍穩寺）日頃より、（龍穩寺）帰依する、（龍穩寺）泰史和尚のために、（龍穩寺）再建した。以後、（龍穩寺）天下の、（龍穩寺）鬼道場として、（龍穩寺）一世を、（龍穩寺）風靡し、（龍穩寺）多くの、（龍穩寺）修行僧、（龍穩寺）魂胆を、（龍穩寺）寒からしめた。

かかる故に、（龍穩寺）天正十八年（一五九〇年）、（龍穩寺）豊臣秀吉より、（龍穩寺）百石の、（龍穩寺）御朱印寺額、（龍穩寺）山付、（龍穩寺）約三百町歩、（龍穩寺）現在の、（龍穩寺）大字龍々谷の、（龍穩寺）全部を、（龍穩寺）含むの、（龍穩寺）寄進を、（龍穩寺）うけ、（龍穩寺）慶長十七年（一六二二年）、（龍穩寺）徳川家康より、（龍穩寺）曹洞宗法度の、（龍穩寺）制定を、（龍穩寺）命ぜられ、（龍穩寺）関東三大寺、（龍穩寺）龍穩寺、（龍穩寺）大中寺（栃木県）、（龍穩寺）總持寺（千葉県の筆頭として、（龍穩寺）活躍し、（龍穩寺）寛永十三年（一六三六年）、（龍穩寺）江戸幕府の、（龍穩寺）神社奉行、（龍穩寺）諸問席に、（龍穩寺）任ぜられ、（龍穩寺）格式十一の、（龍穩寺）石をもつて、（龍穩寺）遇せられた。而して、（龍穩寺）江戸には、（龍穩寺）別師（現在の、（龍穩寺）東京南麻布イラン大使館と、（龍穩寺）よつたら、（龍穩寺）歴代の、（龍穩寺）住職は、（龍穩寺）幕府將軍によつて、（龍穩寺）決定せられ、（龍穩寺）大本山、（龍穩寺）永平寺（福井県）に、（龍穩寺）自動的に、（龍穩寺）昇住した。現在、（龍穩寺）末寺七十餘ヶ寺、（龍穩寺）全国に、（龍穩寺）拡がついてゐる。

しかるに、（龍穩寺）惜しいかな、（龍穩寺）明治維新の、（龍穩寺）改革に、（龍穩寺）際して、（龍穩寺）寺領は、（龍穩寺）すべて、（龍穩寺）没收され、（龍穩寺）その後、（龍穩寺）廢仏棄釈令（神仏分離令）により、（龍穩寺）従來の特権は、（龍穩寺）召しあけられ、（龍穩寺）その上、（龍穩寺）大正二年（一九一三年）、（龍穩寺）諸堂焼失の、（龍穩寺）悲運におき、（龍穩寺）昔の、（龍穩寺）石影は、（龍穩寺）全く、（龍穩寺）失うに至つた。しかも、（龍穩寺）当寺は、（龍穩寺）このように、（龍穩寺）城主や、（龍穩寺）將軍家によつて、（龍穩寺）保護せられ、（龍穩寺）修行寺とし、（龍穩寺）大名寺として、（龍穩寺）發展して、（龍穩寺）来たが、（龍穩寺）ために、（龍穩寺）当初から、（龍穩寺）檀家は、（龍穩寺）もたなかつた。しかし、（龍穩寺）近年に至つて、（龍穩寺）ささやかながらも、（龍穩寺）徐々に、（龍穩寺）復興の、（龍穩寺）兆が見えつゝ、（龍穩寺）も、（龍穩寺）昨今、（龍穩寺）も、（龍穩寺）ありませう。かつて、（龍穩寺）読売新聞、（龍穩寺）埼玉版の、（龍穩寺）武蔵野は、（龍穩寺）生きている、（龍穩寺）武井小、（龍穩寺）実篤、（龍穩寺）巖修に、（龍穩寺）左のごとく、（龍穩寺）紹介された。

「武蔵野のは、（龍穩寺）て、（龍穩寺）新太、（龍穩寺）中道、（龍穩寺）澤田、（龍穩寺）評かに、（龍穩寺）いひ、（龍穩寺）、（龍穩寺）武蔵野に、（龍穩寺）神奈川、（龍穩寺）伊勢原、（龍穩寺）市、（龍穩寺）糟屋にて、（龍穩寺）父、（龍穩寺）先立て、（龍穩寺）父、（龍穩寺）十八年、（龍穩寺）、（龍穩寺）、（龍穩寺）年、（龍穩寺）に、（龍穩寺）、（龍穩寺）されたが、（龍穩寺）晩年の、（龍穩寺）父、（龍穩寺）道真により、（龍穩寺）寺に、（龍穩寺）葬られ、（龍穩寺）、（龍穩寺）、（龍穩寺）した、（龍穩寺）五輪の、（龍穩寺）塔となつて、（龍穩寺）父、（龍穩寺）道真の、（龍穩寺）墓と共に、（龍穩寺）武蔵野の、（龍穩寺）風に、（龍穩寺）吹かれて、（龍穩寺）います。法名は、（龍穩寺）香月院、（龍穩寺）聖苑、（龍穩寺）道灌、（龍穩寺）大居士である。

龍穩寺六十四世住職

小林卓士謹書

ここにも江戸城外濠の石があった(江戸城外濠に架かる神田橋橋台に使用されたものを、首都高速道路開設の際、間組により取り外され、日高町榎木新井巧二氏の好意によって寄贈されたものと記されている)



さまざまな石造物があった



太田道灌像







正面は本堂/戦後の再建



前方の石段を登ると太田道真・道灌親子の墓がある



本堂の右手は庫裡











庫裡/明治初期の遺構を残した民家を利用しているという



この庫裡は明治初期素朴豪壯
に作られた民家で資金不足のため
工事中止され放置されていたのを
大正初期に当寺に移築完成した
民家が洗練された美的極致に達
したのは明治初期と云う。
美しい木目の太い檼の大黒柱を
たて天井にひとかかえ以上の梁が
従横に二重の差鴨居梁
(二尺以上)を用いた民家の重厚な
好みがよく出ている。
善男善女の労力奉仕がなければ
当寺でも工事中止となったであら
う明治初期民家の遺構を残した
重要建築物である。

寄贈 堂山田島芳二
毛呂山新井安司

さて、墓所へ行ってみよう









道灌は江戸城築城のほか川越城・岩槻城・鉢形城の修築に携わっていると記されている(だが、実際は道真が主に行ったという)



埼玉県教育委員会



これが太田道真・道灌親子の墓





墓所から見る風景/前方下は本堂・庫裡





経蔵も見える



鐘樓



この銅鐘は埼玉県の文化財に指定されており、竜頭(鐘を懸ける部分)が朝鮮鐘の特徴を備えているという(1672年鑄造)





禁煙

山菜
取るこ
禁





経蔵/1830年代に再建のもの



埼玉県の文化財に指定されている

埼玉県指定文化財

龍穩寺經藏 一棟

(種別・種類)有形文化財 建造物
(指定年月日)昭和五十八年三月二十二日

第五十六代住職道海和尚が天保年間(一八三〇〜四〇)に建立。唐破風向拝付土蔵造り。屋根は方形で銅板葺きである。外壁に道元禪師一代記の彫刻。向拝天井に酒井抱一による龍の絵が描かれている。内部には一切経を納める輪蔵と、輪蔵の創始者といわれる傳大士の像がある。県内には、これだけの規模と構造を持ち、傳大士の像をそなえた輪蔵を持つた経蔵は他に類例がなく、本県の建築史上貴重な建造物である。



昭和六十一年三月三十一日

埼玉県教育委員会
越生町教育委員会

龍穩寺







経蔵（経堂）

当山五十六世道海和尚が天保年中に創立
屋根は瓦葺銅板葺き方形で、唐破風をつ
け、土蔵造りである。

内部は八角形の転輪蔵造りで、鉄眼の黄
檨版一切経二千冊七十余巻の経文を納め
中央に傳大士と脇立両童子の三体を、四隅
に梵天、帝釈、持国、増長、広目、多聞、
密迹、金剛の八代神将を安置す。

天井は格天井にして四季の花鳥山水と壁
に天女を描き、飛龍は酒井抱一が描けしもの。南北の彫刻は道元禅師が宗国より帰国
する時の情景で、関東了は成田山、鏝阿寺等
にあり貴重な建造物である。

龍穗寺第六十四世 卓苗代













参考ホームページ

http://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/57066828.html

<http://frett.com/abuabu/bike/map/shot/ryuonij/ryuonij.html>

<http://keny72.blog.fc2.com/blog-entry-147.html>



熊野神社(龍穩寺境内にある)

村社熊野神社とある/正面は一の鳥居



ここは二の鳥居



鳥居の支柱は中間から下がコンクリート造となっていた



拝殿





天保十五年(1844年)に再建された拝殿と本殿がつながった権現造りの社殿/越生町の文化財



左手が本殿





本殿



本殿



右手が拝殿



本殿背面





本殿



拝殿



本殿





参考ホームページ

<http://www.mikumano.net/zsaitama/ogose2.html>

http://www.town.ogose.saitama.jp/div_gakumu/kyouikuka/bunkazai/shitei/shitei-bun/kumano-syaden.htm

<http://blogs.yahoo.co.jp/maruchan1902/17196127.html>